

CSR報告書2013

社会から信頼・共感される企業をめざして



デンソートリム株式会社

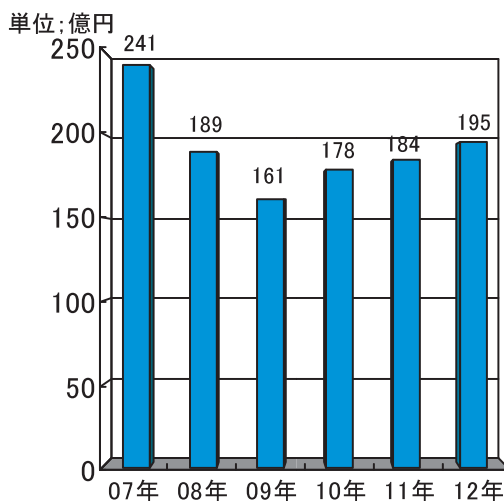
もくじ

1. 会社概要／製品概要	2
1-1. 会社概要	
1-2. 製品概要	
2. 社長メッセージ	3
3. デンソートリムのCSR	4
3-1. 基本的な考え方	
3-2. デンソーグループ企業行動宣言	
3-3. デンソーグループ社員行動指針	
3-4. デンソーグループスピリット	
4. 社会性報告	6
4-1. お客さまとともに	
4-2. 社員とともに	
4-3. 地域・社会とともに	
5. 環境報告	15
5-1. 環境方針	
5-2. 環境監査体制	
5-3. 環境推進体制	
5-4. 環境行動計画	
5-5. 法規順守状況	
5-6. 生産環境負荷削減	
5-7. 12年度環境活動状況まとめ	
5-8. 製品での環境への貢献	
編集後記	20

1. 会社概要／製品概要

1-1. 会社概要

社名	デンソートリム株式会社
所在地	三重県三重郡菟野町大強原赤坂2460
設立	1990年3月30日
代表	取締役社長 平松晃一
資本金	3億1千万円
従業員数	554名（2013年3月末現在）
売上高	単位:億円

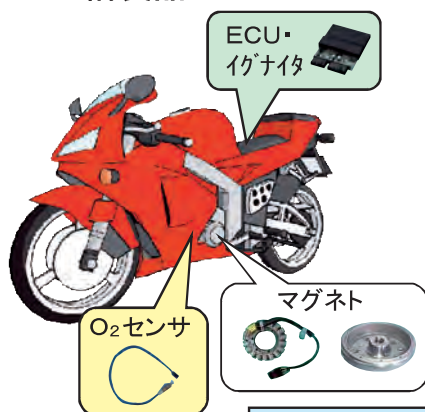


1-2. 製品概要

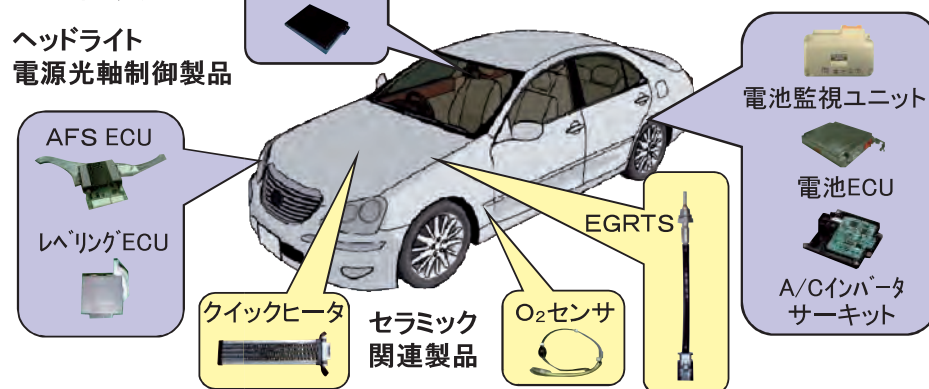
デンソートリム設立のきっかけとなった二輪車用マグネット（発電機）は、会社設立以来つくり続けており、研究・開発から製造まで一貫体制で生産しています。

現在では「エンジンECU・AFSECU・ハイブリッド車用制御装置」などの電子製品や「O₂センサ」などのセラミック製品も担当し、二輪車・四輪車などに欠かせない製品を生産しています。

<二輪製品>



<四輪製品>



二輪点火・四輪電子制御・エンジン周辺機器等の製品を生産

2. 社長メッセージ

近年、デンソーグループの事業活動が急速にグローバル化する中、社会から期待される社会的責任の範囲も広がってきています。そのため、(株)デンソーは2006年にCSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) 方針として「デンソーグループ企業行動宣言」を策定し、グループ全体でCSRに取り組み、社会から信頼され、共感される企業をめざしていくこととしました。



デンソートリム(株)もデンソーグループの一員として、この方針に則り、ステークホルダー（お客さま、仕入先さま、社員や社会など）を大切にして、業績に加え法令や倫理をきちんと守るだけでなく、地球環境への配慮、社会貢献などにもバランスよく取り組むことを意識し企業活動を続けています。

CSRの基盤活動の一つに「情報開示」があります。また、活動のレベルアップを図るには、主役である社員一人ひとりにより深い理解を促し、意識と行動を成長させていただくとともに、社外のステークホルダーの皆さまの声を経営に活かしていくことが必要と考えます。その方策の一つとして、2012年から「CSR報告書」の発行を開始しました。

本年も、2012年度から2013年度前半の状況を織り込み、作成いたしましたので、ご高覧いただき、ご意見など頂戴できましたら幸いです。

CSRの実践が皆さまとの価値共有を進め、持続的な企業力向上にも繋がると信じ、活動して参りますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

2013年11月

デンソートリム株式会社

取締役社長

平松晃一



3. デンソートリムのCSR

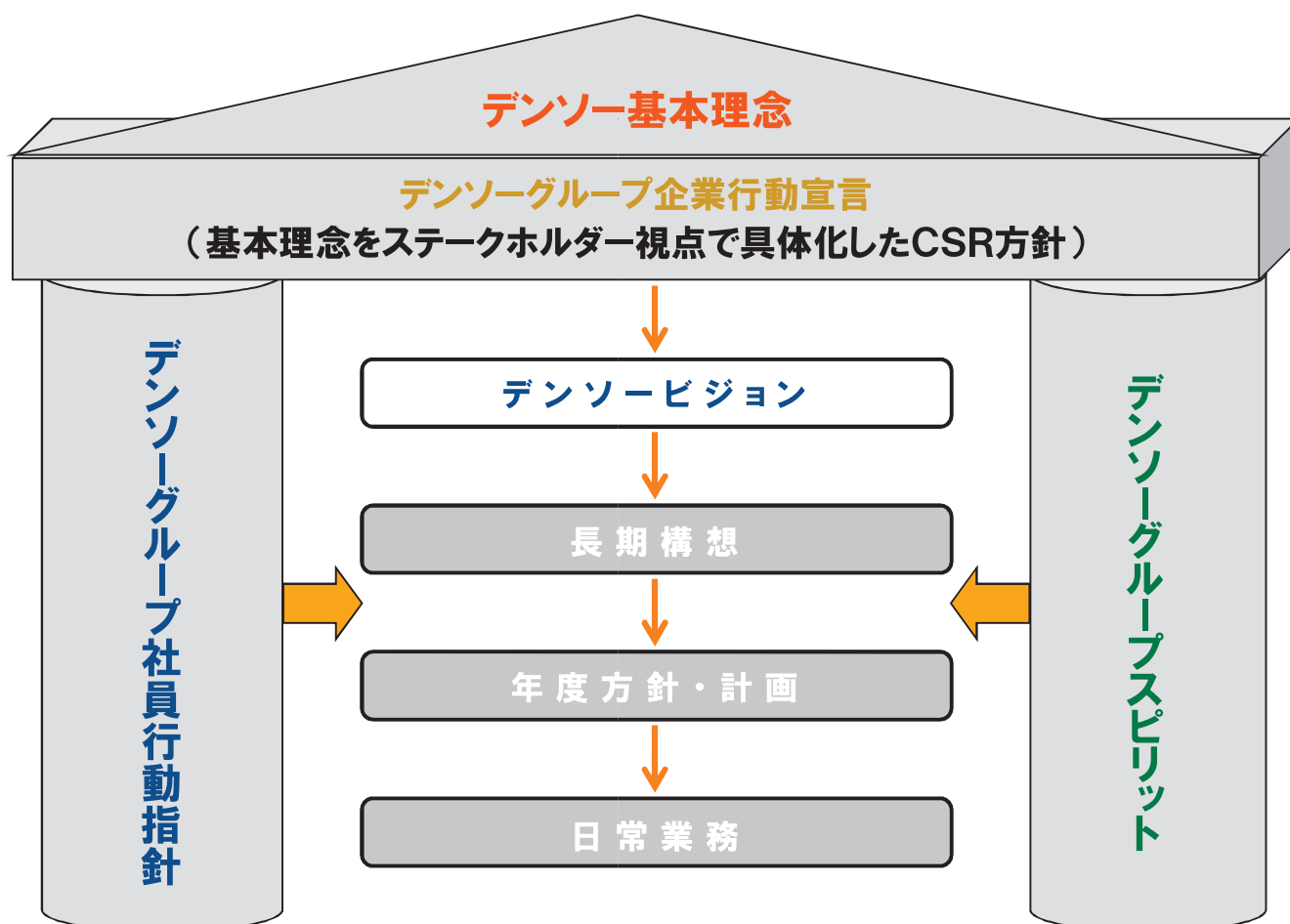
3-1. 基本的な考え方

デンソーグループは、基本理念の中で「世界と未来をみつめ新しい価値の創造を通じて人々の幸福に貢献する」と使命を掲げ、2004年に理念の実現に向けた長期経営ビジョン「デンソービジョン2015」を策定して指針としています。

ビジョンを達成するには、多くのステークホルダーと価値観を共有しながら連携・協力していくことが不可欠であり、その基盤となるのが「社会から信頼・共感される企業行動」です。これを世界中で事業活動を行うグループ会社実践していくため、2006年4月、「デンソーグループ企業行動指針」を策定し、ステークホルダーへの責任を明らかにしました。

以来、CSR（企業の社会的責任：Corporate Social Responsibility）を経営の中核に据え、事業活動を通じた持続可能な社会づくりへの貢献に取り組んでいます。

私たちデンソートリムは、デンソーグループの一翼を担う企業として、デンソーグループ企業行動指針に基づき、計画と目標を立ててCSR活動を推進しています。



3-2. デンソーグループ企業行動宣言

【宣言文】（抜粋）

私たちは、社会の持続的な発展に率先して貢献します。

- (1) 経営トップのリーダーシップのもと、誠実な事業活動をグローバルに遂行します。法令とその精神を遵守するとともに倫理的行動を実践します。
- (2) 各国の文化・歴史を尊重して人を大切にする経営に努め、オープンでフェアな情報開示と対話を実践します。
- (3) 変化を先取りして、新しい価値の創造にチャレンジします。そして、現地現物を重視しカイゼンに努めて最高の品質を実現します。
- (4) コミュニケーション、チームワークを大切にして、人材の育成に努めます。

3-3. デンソーグループ社員行動指針

「デンソーグループ企業行動宣言」を実践するため、社員一人ひとりがデンソーグループの一員として、各ステークホルダーにどのような心構えで、どのような行動をとるべきか、そのガイドラインを示したものです。

社員一人ひとりが社会に果たす役割を常に意識し行動するよう、指針の浸透を図っています。

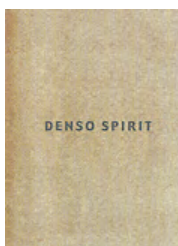


目次

- I. デンソーグループの一員として
- II. 生き生きとした職場をめざして
- III. あらゆるお客様の信頼と期待に応えるために
- IV. 仕入先との共存共栄をめざして
- V. 株主の信頼と期待に応えるために
- VI. 社会と共生するために

3-4. デンソーグループスピリット

真のグローバル企業として成長・発展するため、グループ全体で共有すべき価値観・信念を明示したものです。



企業成長の原動力は「先進」「信頼」「総智・総力」
デンソーグループスピリットは、創業以来、暗黙知として連綿と継承されてきた「先進」「信頼」「総智・総力」の考え方を2004年に明文化し、あらゆる分野で取り組みを推進する原動力として機能するため、17カ国語に翻訳し、グローバルな共有に注力しています。

4. 社会性報告

4-1. お客さまとともに 一品質一

品質を支えるのは、人の力。品質第一主義を基本に高品質なモノづくりに努めています。

そのために、独自の教育システムを構築して社員教育を推進するとともに、デンソーグループの教育カリキュラムにも参加しています。従業員一人ひとりが必要なスキルを身に付け、お客さまの満足向上につなげています。

(1) 品質保証の基本方針

1. お客様に対する品質第一主義に徹する
2. 仕事の各段階で最初から正しく品質保証する
3. 全員参加による品質管理を推進する

(2) 社員教育

① わかば道場（社内教育訓練道場）

新入社員の導入教育において、座学（OFF-JT）と訓練（OJT）を融合し、モノづくりに対する考え方を習得します。

また、新入社員だけでなく、中堅・職制の教育、更に国家検定練習の場とし、人材育成に活用しています。



② 階層別教育・職能別教育（全社的に推進する教育）

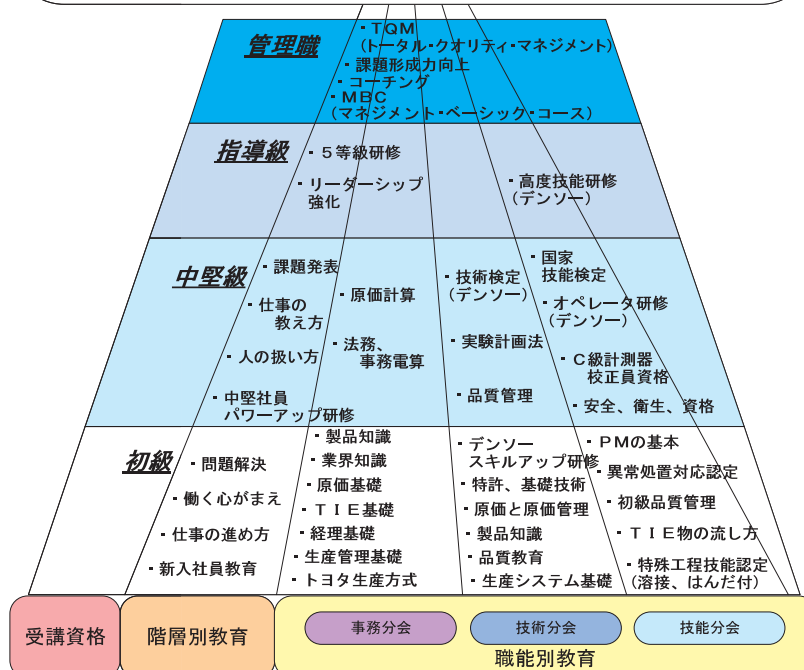
創造性とチャレンジ精神が旺盛で
活発に行動できる人づくり

階層別教育

各役職・階層および管理・推進業務指名者に必要な役割意識・意欲の向上、管理手法の習得を図る教育

職能別教育

各職能に必要な専門知識・能力向上を図る教育



4-2. 社員とともに (1) コミュニケーション

① 全社朝礼

毎月第一稼働日に全社員が集まって全社朝礼を開催しています。

社長と部長以上職制1人から社員に向けたスピーチだけでなく、優れた成果を収めた社員の表彰も行なっています。

また、当日夜勤の方や聴覚障がい者の方々にも朝礼内容を伝えるべく、全社朝礼ダイジェストを作成し、各職場での展開を実施しています。



② 社員親睦

より良い職場環境を築くには、社員相互の豊かなコミュニケーションが不可欠と考え、社員同士の親睦を図る場の一つとして、新入社員歓迎会等を開催しています。



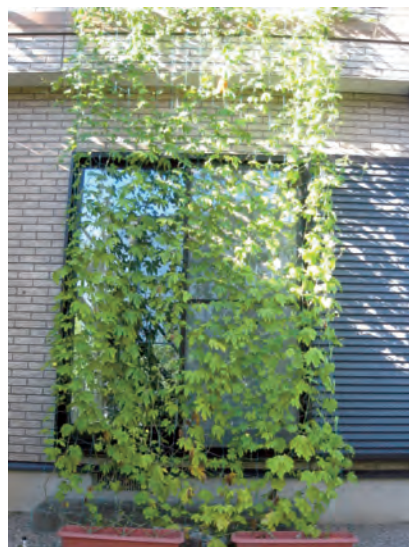
2013年4月開催の新入社員歓迎会

③ グリーンカーテン・フォトコンテスト

デンソーグループでは、6月の「環境月間」にあわせ、環境にちなんだ各種行事を展開しています。

当社でも、社員自身（家族含む）が栽培している「グリーンカーテン」（1年草のアサガオ、ゴーヤ等何でもOK）を対象に、フォトコンテストを開催しています。

審査の基準は、栽培面積や収穫量、カーテン形状のユニークさ・エレガントさなど、参加者からのアピールをもとに、総合的に判断しています。



2012年度グランプリ受賞作品

④ファミリーオープンハウスデー

社員のご家族の皆さんに会社施策への理解を深めていただくとともに、社員とご家族のコミュニケーション充実を目的として、2013年度から社内を見学していただく「ファミリーオープンハウスデー」を開催することにしました。

学校の夏休みに合わせて実施するようにし、職場見学に加え、お子様に「モノづくり」が好きになってもらえるよう「モノづくり体験」も実施しました。今年は「環境に優しい」という観点から「ソーラーカーづくり」としましたが、実際に作って走らせることができたという好評でした。



作成した
ソーラーカー

(2) 文部科学大臣表彰「創意工夫功労者賞」7名受賞

文部科学省では、科学技術に関する研究開発・理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とする科学技術分野の文部科学大臣表彰を定めています。



その表彰の一つに、優れた創意工夫によって職域における技術の改善向上に貢献した者を対象とした「創意工夫功労者賞」があります。

今年度、初めてこの創意工夫功労者賞に申請（推薦）を行ないました。

その結果は申請した7名全員が、創意工夫功労者賞を受賞することができました。受賞者7名の業績は、作業効率の向上、製品の品質向上、コスト削減、災害防止など技術的な創意工夫で、かつ貢献実績が顕著なものとして認められたものです。

一般的には、申請総数の2～3割程度しか受賞できない狭き門といわれている中、今回が初挑戦の当社にとって、「全員受賞」の快挙が成し遂げられたことは、本人はもとより、各職場で明るい話題となり、会社全体に喜びの輪が広がりました。

今後とも、この受賞を弾みとして、全社一丸となって製品の品質の向上、改善活動の活性化に努め、毎年受賞者を輩出できるよう、愚直に日々進化するモノづくりに取り組んでまいります。

(3) 多様な人々が活躍できる職場づくり

①仕事と育児の両立支援（育児休暇制度、育児短時間勤務制度）

仕事と育児の両立を支援するための仕組みとして、産前産後休暇をはじめ、法定を上回る育児休暇制度や育児短時間勤務制度〔表1〕を導入しています。

年々従業員の利用率は上がっており〔表2〕、これからも継続して仕事と育児の両立を支援する仕組みを進化させていきます。

育児短時間勤務制度（9:30～16:30）利用者の声



購買課 内田さん

2人目の育休明けで復職する際に、仕事と家庭の両立に不安があり、当制度を取得しました。

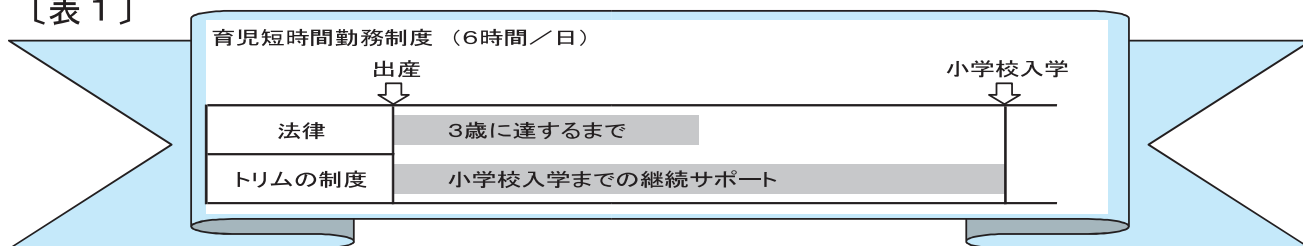
実際取得してみて、朝夕の1時間の差は大きく、時間があることで心身共に安定し、ゆとりを持って家事・育児ができています。また、子供と触れ合う時間が増えたことが嬉しく、取得してよかったと思います。

〔表2〕

育児短時間勤務制度（利用者）

年度	👤 = 1人
2011年度	👤
2012年度	👤 👤 👤
2013年度	👤 👤 👤 👤 👤

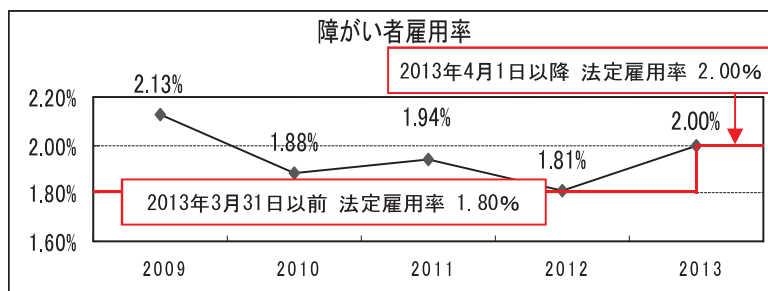
〔表1〕



②障がい者雇用

— 在籍している障がい者の方が長く職場定着できる環境づくり —

取組みの一環で、聴覚障がい者の方同士の横の繋がりを持つ場として、聴覚障がい者だけの懇親会を定期的を開催し、そこで会社・職場への要望等も確認・対応しています。



③社内人材公募

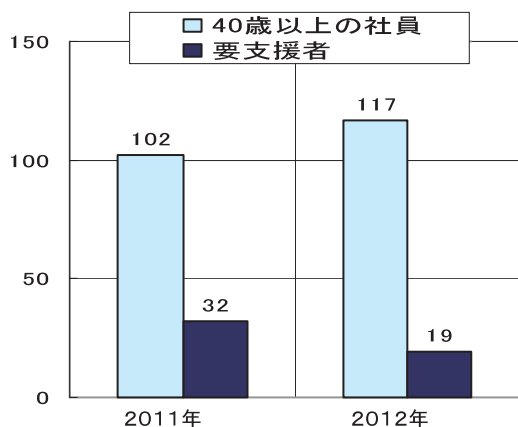
会社の将来を見据えた体制づくりに向け動き出すとともに、社員のモチベーション向上も図るべく、本年度から「社内人材公募制度」をつくり、実行に移しました。この制度は、意欲ある従業員に個人の能力伸展に繋がる活躍の場・機会を提供することを目的とし、幅広く社内より人材を募り、従業員が自由に応募できる制度です。

書類審査や面談実施の結果、17名の方が新しい職場で活躍することに決定しました。

(4) こころとからだの健康管理

当社では、社員の心身両面の健康づくりを進めています。増加傾向にある生活習慣病（高脂血症・高血圧・糖尿病など）の予防としては、特定保健指導の対象者に対して、食生活の改善と運動習慣の定着に向けた教育指導を半年間継続実施。また、仕事でストレスを感じる勤労者が増加している中、予防・再発防止を図るべく、メンタルヘルスケア体制充実や管理者教育などに取り組んでいます。

特定保健指導（対象40歳以上）



メンタルヘルスケア管理者教育

	2012年12月	2013年9月
テーマ	職場におけるメンタルヘルスケア	メンタルパートナー養成研修
講師	三重県産業保健推進センター：安保明子先生	三重県(実施主体)の講師養成研修受講済社員
受講者	管理者60名	管理者74名

(5) 安全な職場づくり

「安全は全てのものに優先する」を合言葉に、経営層による安全巡回、安全サークル活動、職場安全診断を始めとする物的対策・啓蒙活動を地道に気を緩めることなく継続しており、操業以来「休業災害以上0」を継続中です。

(2009年8月には第三種無災害記録(1,580万時間)を達成)

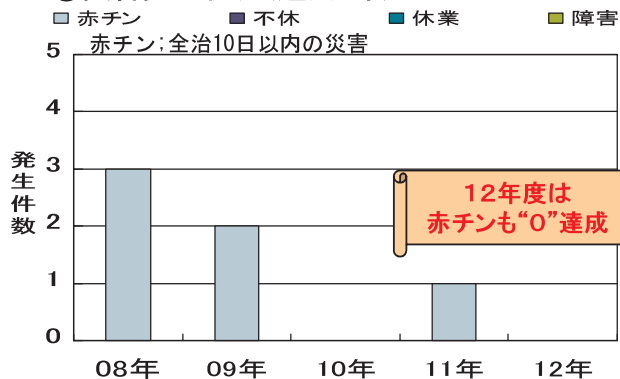
①安全指標(12年度)

管理項目	目標	実績	評価
重大災害	0件	0件	○
休業度数率	0	0	○
出火事故	0件	0件	○
職業性疾病	0件	0件	○

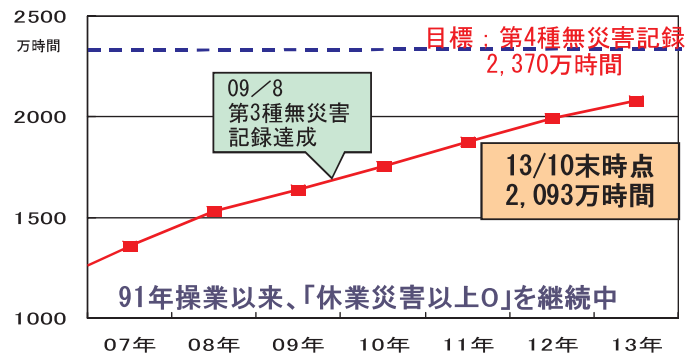
②安全施策

	10年	11年	12年	13年
自発的に安全行動できる意識の浸透	3S 対話3-3活動 安全・歩行5訓			
	「安全のあたり前」掲示(日めくりカレンダー) 安全基本行動の教え込み活動			
リスク先取りによる重大災害防止対策強化	トップ安全・5S診断・環境重要設備巡回			
	フォークリフトと人の分離化			
安全衛生マネジメントの強化	OSHMS全社活動(リスクアセスメント)			
	階層別 安全衛生教育			

③災害発生状況(過去5年)



④無災害時間(休業以上)



今後も「赤チンもゼロ」を継続すべく愚直に安全活動に取り組めます

(6) 防災（震災への備え強化）

東日本大震災での教訓を踏まえ、デンソーグループでは、「震災リスク対応」の見直し・強化に向けた動きを進めています。

初動段階では、「人命第一」を最優先に被害の極小化をめざし、ハード・ソフト両面から従来の取組みを見直し、強化対策を順次実施しております。

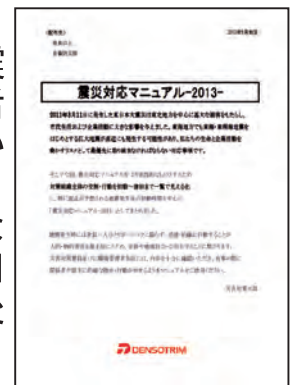
また、復旧段階においては「お客さまに迷惑を掛けない」を合言葉に、新たにリスク対応在庫を設定するなどして、早期事業復旧への取組みを強化中です。

以下では、当社が取り組んでいる強化策の一端をご紹介します。

災害対応マニュアルの見直し

東海地方でも東海・東南海地震をはじめとする巨大地震が直近にも発生する可能性があり、私たちの生命と企業活動を脅かすリスクとして最優先に取組まなければならない対応事項です。

そこで、これまでの災害対応マニュアルをより実践的なものにするため、対策組織全体の役割・行動を初動～復旧まで一覧で見える化し、特に混乱が予想される地震発生後の初動時期を中心に「震災対応マニュアルー2013ー」
として見直しました。



4-3. 地域・社会とともに

(1) 地域との対話を深める懇談会開催

当社では、年に1度、地元の代表の方々と菰野町役場の方を会社にお招きして、「トリムの最近の事業活動や環境活動への取組み状況」をご説明しご理解いただくと共に、地元の皆様からは会社に対し、ご意見・ご要望等をお寄せいただいています。

2012年度は、菰野町役場から2名、地元池底区・大強原区から7名、計9名の皆様に参加いただき、環境取り組み体制や環境データの測定結果（工場排水の水質・敷地境界の騒音・振動レベル）などを説明し、工場もご視察いただきました。

当社では、今後とも、地域社会の一員として地元行事などに積極的に参加すると共に情報公開を推進し、周辺住民の方々や行政機関との対話を図ってまいります。




(2) ボランティア活動

地域社会の一員として、「私たちがお世話になっている地域の環境保全活動に少しでも協力しよう!」と会社周辺の環境美化活動を定期的に行っています。当社では、この活動を「DENSOGグループハートフルデー」の取組みとして今後も大切にしていきたいです。

その他にも、社内での「献血活動」や「空き缶のプルトップ収集」さらに「ペットボトルのキャップ収集」も行なっております。

① ゴミゼロ活動(年4回;1996年~)



デンソーグループ
(世界30以上の国・地域)
(12万人)
ハートフルデー
協賛行事

ハートフルデーとは、世界中のデンソーグループ会社が「思いやりを行動に」をスローガンに任意の日を「**ハートフルデー**」に設定し、社員による地域貢献活動に重点的に取り組む運動

12年度	参加人数
6月	253名
9月	142名
11月	188名
*3月 (菰野町クリーン大作戦)	98名
計	681名



② 献血活動(年2回;1995年~)

献血活動は、1995年から平日の勤務時間内に年2回(春・秋)実施

表彰

2005 日本赤十字三重県支部長
感謝状(銀杯)

2007 三重県知事感謝状

2012 日本赤十字三重県支部長
感謝状(金杯)

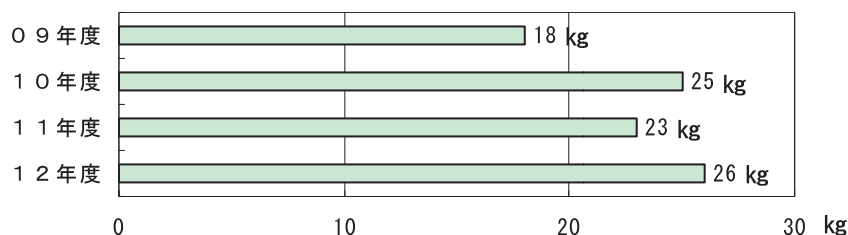
12年度	参加人数
6月	60名
11月	53名



③空き缶のプルトップ収集（2009年～）

アジアの障がいのある子供たちに車いすを贈ろう！

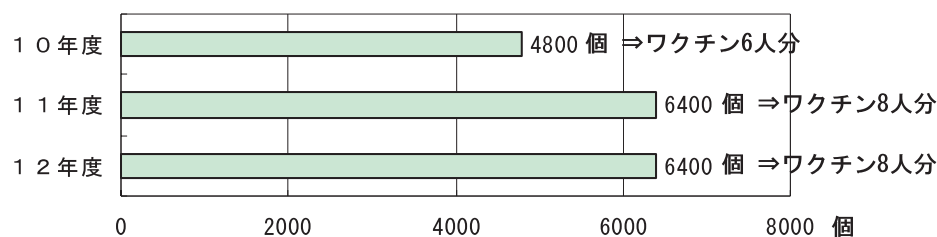
◆自販機に収集箱を設置し、約200kgのプルトップで車いす1台を贈る運動。



④ペットボトルのキャップ収集（2010年～）

世界の子どもをワクチンで病気から救おう！

◆工場入口に収集BOXを設置し、満杯（2400個）になると3人分のワクチンを購入可能。



(3) 交通安全活動

デンソーグループでは、生命を守るための安心・安全に関わる技術開発やモノづくりを追究するとともに、自動車産業に携わる企業として、社会的弱者が安心して暮らせるよう交通安全の取組みにも力を注いでいます。

当社でも以下の通り、交通ルールを遵守し地域に迷惑をかけないよう指導・徹底をしています。

実施項目		内容
社員への交通安全教育	交通安全決起大会（年2回）	四日市西警察署交通課長を講師に招き全員参加で実施
	新入社員の通勤経路同乗指導（4月）	免許取得1年未満の新入社員に対し上司による同乗指導を実施
通勤車両管理	西門立哨（月1回）	西門にて通勤車両のシートベルト着用状況確認し、指導を実施
	通勤車両チェック（随時）	違法な車両が無い確認
地域活動	ミルミルウェーブ（年2回）	四日市西交通安全協会主催の街頭立哨にて交通安全の呼びかけを実施

(4) その他の活動

①「高校生の職業意識形成」支援活動

近隣の高校生が職業への理解を深め、進路選択・決定の一助となるような支援活動を実施

- 1) 出前授業 (2007年～)
授業の一つとして、教室や体育館で「就職・働くとは？」というテーマで講義。
- 2) 工場見学受入れ (2006年～)
生産現場を案内し、仕事内容を説明することで、製造職への理解を深めてもらう。
- 3) インターンシップ受入 (2001年～)
作業員として3日間程度生産現場で実習を行ない、製造工程の技能や決め事に触れることで、働くことの厳しさ・面白さを体感してもらう。

12年度	内容
9月	出前授業 (1年生希望者 64名)
11月	出前授業 (1年生全員 146名)
11月	工場見学受入 (2年生 20名)
12月	工場見学受入 (2年生 16名)
2月	工場見学受入 (2年生 19名)



1) 出前授業



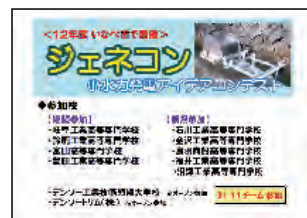
2) 工場見学

②小水力発電アイデアコンテストへのオープン参加

このコンテストは、工業高等専門学校が地域の自然資源を活用した小水力発電のアイデアを提案し、設計・制作・設置を通じて自身の技術と社会の関わりを学ぶ機会として、2011年度から開催されています。

2012年度は、いなべ市で開催され、中部地方の9高専が参加しました。

(株)デンソーが特別協賛企業として支援し、当社も自社製品のマグネット (発電機) を活用したコンパクトな小水力発電装置を製作し、オープン参加しました。



③鈴鹿山麓かもしかハーフマラソンへの協賛

当社の地元・菰野町で開催される鈴鹿山麓かもしかハーフマラソンは今年で第8回を迎え、2006年の第1回開催から7年連続で、全国ランニング大会100撰に認定されています。

全国各地から多数のランナーが参加し、菰野町の素晴らしさを発信する鈴鹿山麓かもしかハーフマラソンに第1回から協賛しています。



5. 環境報告

デンソーグループは、「人と地球にやさしいクルマ」の実現を通じて「先進的なクルマ社会の創造」に貢献できる企業グループをめざしています。そのために、製品・生産にとどまらず事業活動のあらゆる分野で環境負荷を削減すると同時に、世界でトップクラスの環境効率や高い資源生産性を追求しています。あわせて、環境保全活動を通じて経済価値を創出する「環境経営」を推進しています。

〔デンソーエコビジョン2015〕

「デンソーエコビジョン2015」では、温暖化防止、資源循環（省資源）、環境負荷物質の管理・削減（汚染予防）を全事業活動で重点的に推進し、「2015年長期環境目標」と「2015年環境行動計画（第5次）」を設定。グループ各社で共有するとともに、PDCAサイクルに基づく検証・見直しを繰り返しながら、取り組んでいます。

デンソートリムでは、「デンソーエコビジョン2015」を踏まえ、様々な活動を展開しています。



5-1. 環境方針

理念

制定 2000年6月
第4回改正 2012年6月

当社は鈴鹿山系の麓に位置し、緑豊かな環境に恵まれている。この美しい自然を健全な状態で次世代に引き継ぐよう、積極的に「環境保全」に努める。

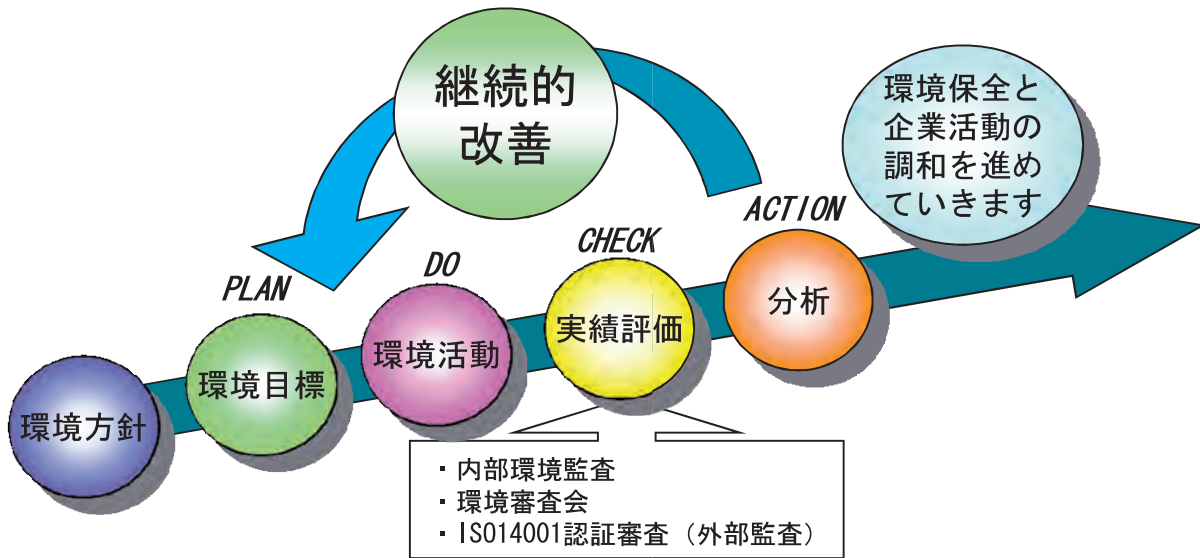
方針（骨子）

1. 環境に関する法律・規則・協定を順守すると共に、環境目的、目標を設定し、企業の活動が環境に与える影響を的確に捉え、環境汚染の予防等により環境の継続的改善に努める。
2. 環境保全活動は発生源対策が基本であり、製品企画段階から省資源、省エネルギー等の新技術を積極的に導入し、排出物及びエネルギーの低減に取り組み、環境負荷を総合的に低減させる。
3. 環境教育・啓蒙活動を通じ、各業務段階で従業員一人ひとりの環境保全意識を高めていく。
4. 地域住民との対話を大切にすると共に、地域社会の一員としての自覚と責任をもち、地域における環境保全活動に積極的に協力し、社会との良好な共生関係を築く。
5. この環境方針は社内外へ公開する。

スローガン：「次世代へ引き継ごう、澄んだ空気と豊かな緑」

5-2. 環境監査体制

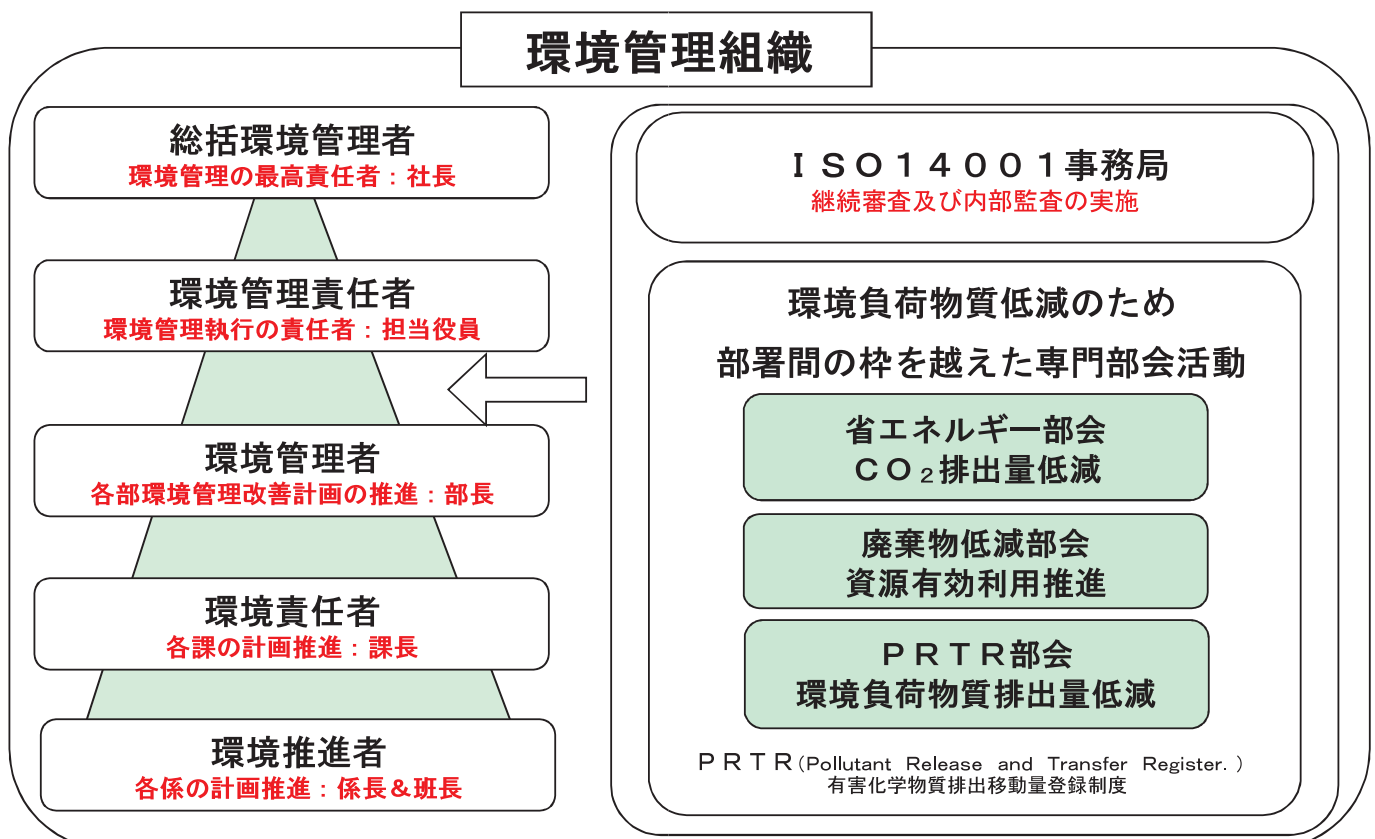
国際規格ISO14001に基づき、「環境マネジメントシステム」を構築しています。



5-3. 環境推進体制

1999年10月に「デンソートリム環境管理組織」を設置し、会社全体として環境問題を審議し、統括する体制を構築しました。

同時に、個別の課題を解決するために「専門部会」を設置し、取り組みの強化を図っています。



5-4. 環境行動計画

12年度の取組項目と実施事項

デソー エコビジョン	項目	取組み方針	実施事項
環境経営の 拡充 【エコマネジメント】	1. 環境マネジメントシステム運用	環境マネジメントシステムの継続的改善	①ISO14001認証の継続(環境に関する継続的改善の推進) ②法規・自主基準の順守(水質、騒音・振動)
	2. 環境パートナーシップの強化	環境に配慮したサプライヤーからの調達	①デソーグリーン調達ガイドラインの仕入先への展開・要請 ②グリーン購入：100%継続
環境と性能 向上の両立 【エコパフォーマンス】	3. 製品に含有する環境負荷物質の管理、削減	環境負荷物質の適正管理	①部品・材料に含まれる環境負荷物質を管理・削減 ②鉛フリーはんだへの切替
	4. 事前環境影響評価の充実	環境影響を事前評価するEMSの推進	①規程に基づく事前環境影響評価の継続 ②仕事の各段階での事前環境影響評価の継続
グローバルな 生産環境負荷 の着実な削減 【エコファクトリー】	5. CO ₂ 排出量低減	①省エネルギーの推進 ②輸送改善等による削減	①CO ₂ 排出量：10年比 6.0%減
	6. 排出物低減の推進	資源ロス低減活動推進	①総排出物発生量削減：03年度比▲3.5% ②ゼロエミッション継続 埋立廃棄物量150kg/月以下
	7. 工場環境負荷物質排出量低減	生産工程で使用する化学物質の適正管理と削減	①VOC対象物質：06年度比▲15% VOC：Volatile Organic Compounds(揮発性有機化合物) 対象物質例【VOC：トルエン、キシレン、イソプロピルアルコール等】
環境行動に関する地域貢献と情報発信 【エコレポート】	8. その他	地域社会とのコミュニケーションの充実 環境保全意識の高揚	①地域活動への積極的な参画 ②構内緑化活動の推進 ③環境報告書による情報公開 ④環境保全教育・啓蒙活動の推進 ⑤エコカー導入

仕事の各段階で環境負荷低減を目指し、具体的な活動項目と目標を定めて、環境保護に取り組んでいます。

5-5. 法規順守状況

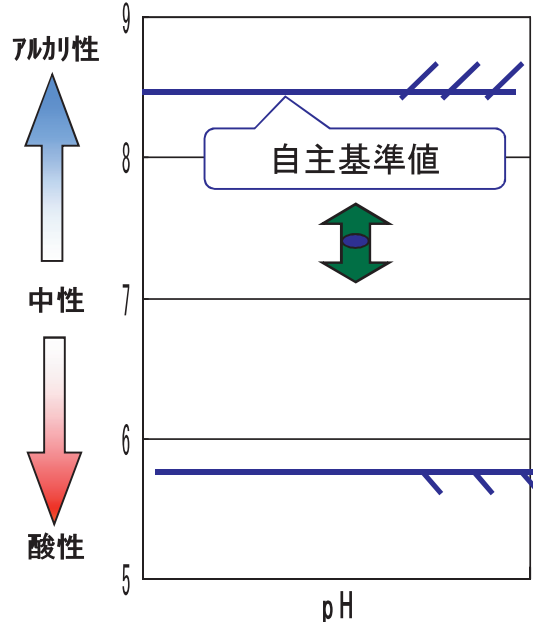
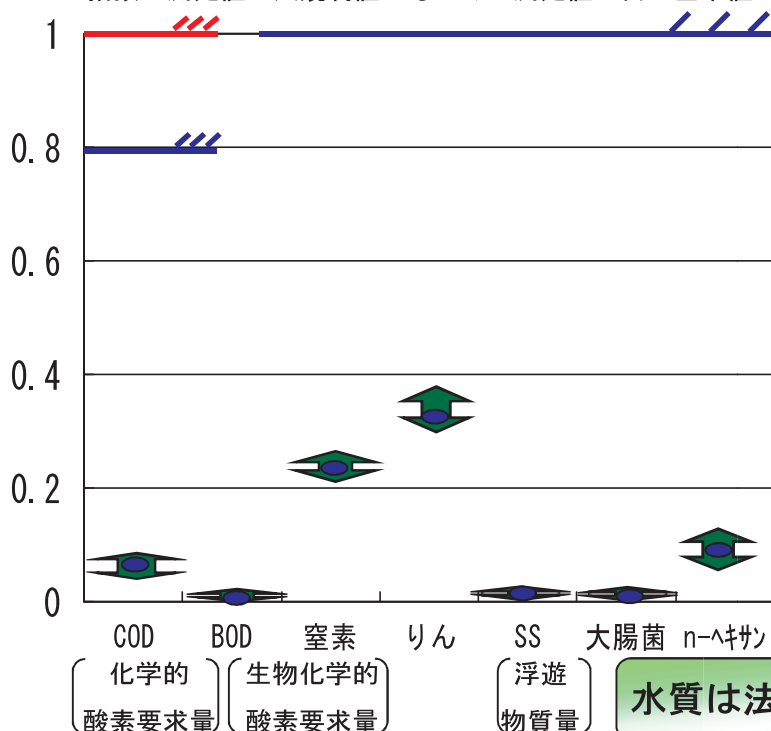
①工場排水の水質測定結果

【菟野町との公害防止協定に基づき2回/年(4月、10月)測定し町に報告】

—法規制値 —自主基準値(特定事業所の基準)

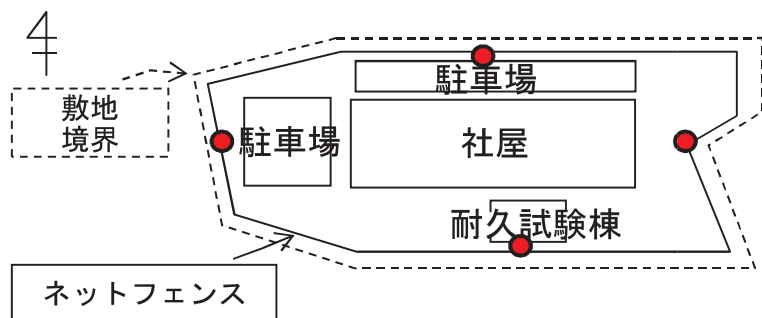
指数 = 測定値 / 法規制値 もしくは 測定値 / 自主基準値

11年度現状の排水量が30m³/日以下になり特定事業所【50m³/日以上】から小規模事業所に法規制適用枠変更。



水質は法基準の半分以下で維持しています。

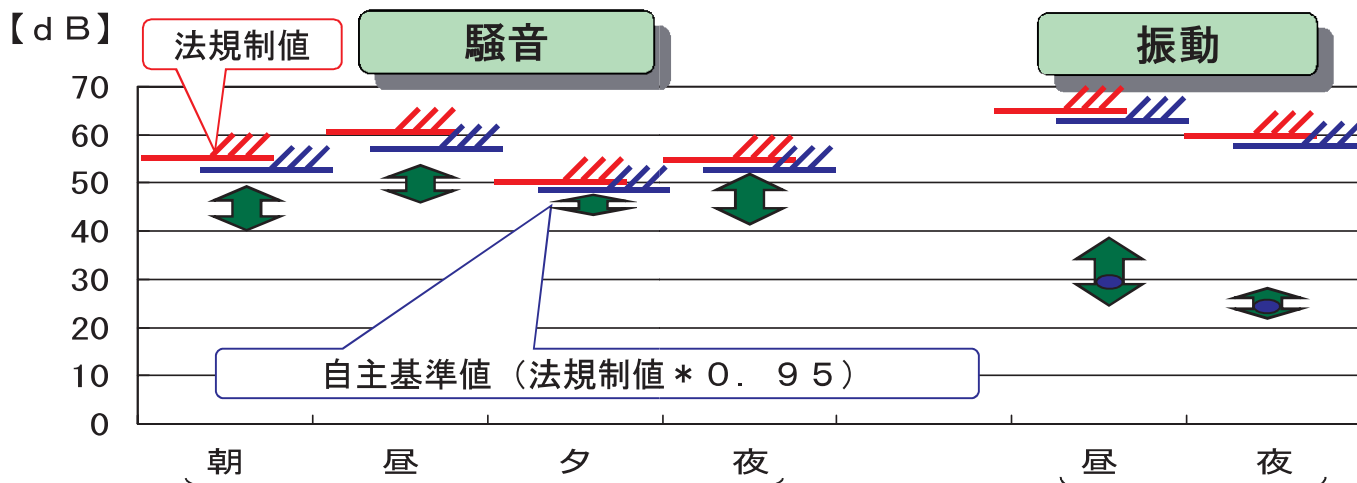
②騒音振動測定結果



● : 騒音・振動測定箇所

朝 … 6:00 ~ 8:00
 昼 … 8:00 ~ 19:00
 夕 … 19:00 ~ 22:00
 夜 … 22:00 ~ 6:00

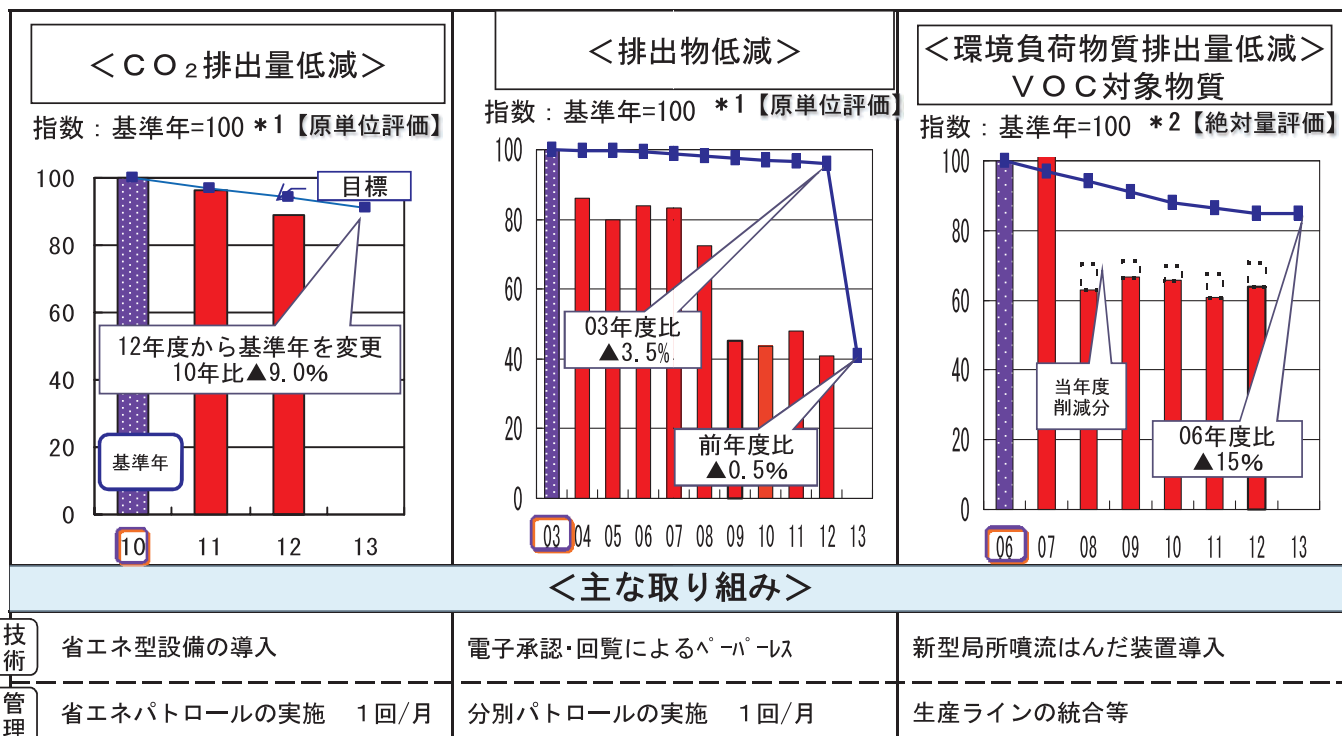
測定頻度 : 1 / 6ヶ月(5月、10月)



騒音、振動とも社内基準値以下の問題の無いレベルです。

5-6. 生産環境負荷削減 (基準年~12年度)

生産環境負荷の削減活動状況推移について



*1【原単位評価】: 生産金額1億円当たりの排出量
 *2【絶対量評価】: 排出総量(生産に直結)
 VOC: Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)

継続的な改善活動で12年度目標は達成。
 さらなる改善に取り組みます。

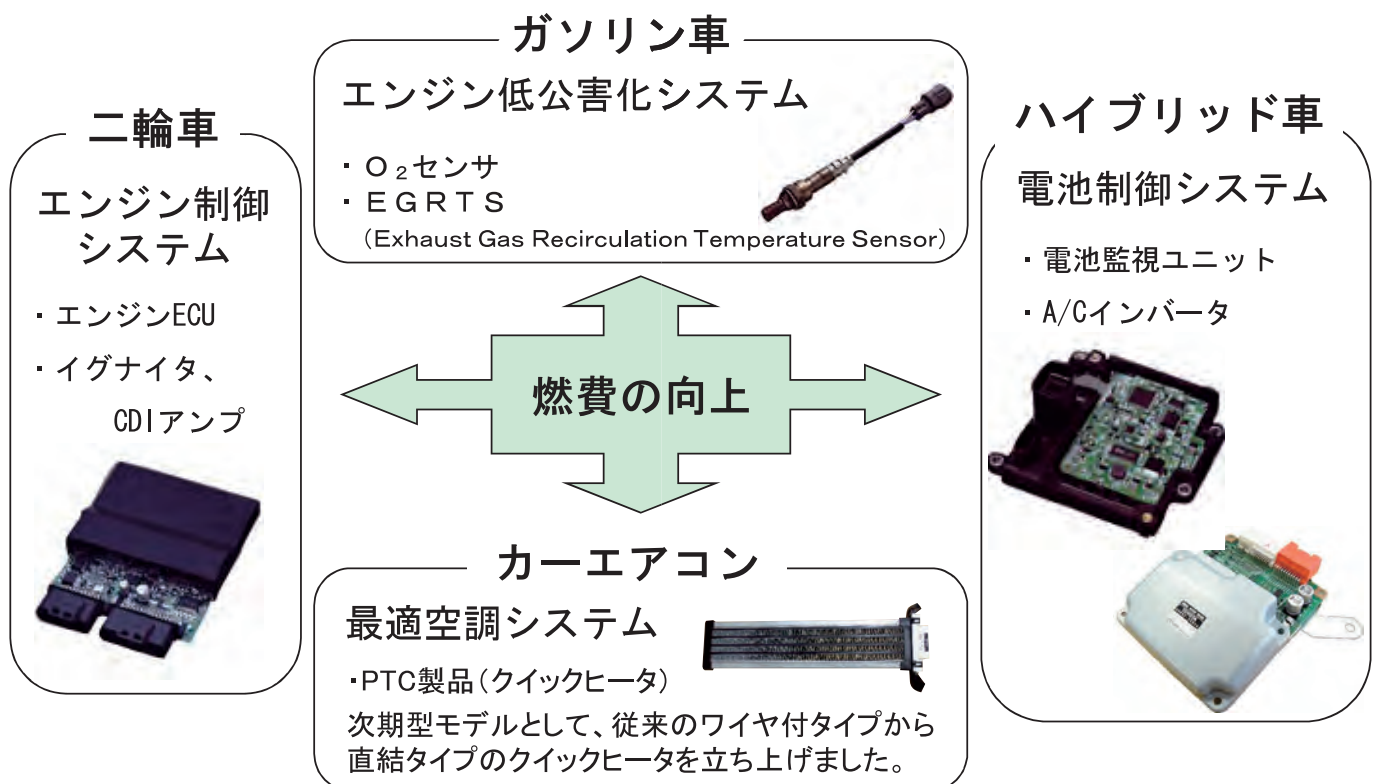
5-7. 12年度環境活動状況まとめ

項目	実施事項	目標	12年度実績	評価
法規制などの順守	水質、騒音振動定期測定 届出報告実施	社内基準値以内 漏れなく実施	全て満足	○
	公害及び苦情ゼロ	0件	0件	○
環境負荷の削減	CO ₂ 排出量低減 ・排出量低減	10年比▲ 6.0%	▲ 11.0%	○
	資源有効利用推進 ・排出量低減 ・ゼロエミ継続（埋立廃棄物低減）	03年度▲ 3.5% 150kg/月以下	▲ 59.0% 58kg/月	○ ○
	工場環境負荷物質排出量低減 ・VOC対象物質削減	06年度比▲15%	▲36.1%	○
環境行動に関する 地域貢献等	地域活動への積極的な参画 ゴミO活動への参加	4回/年 開催	4回開催 (681名参加)	○
	課単位での環境教育の実施	2 H/人・年以上	2 H	○

各環境目標は達成しておりますが、改善の手を緩めず、今後も「地域からより信頼される企業」を目指し、環境保全活動を推進します。

5-8. 製品での環境への貢献

二輪車・四輪車の燃費を向上し、排出されるCO₂の削減に貢献する製品を生産しています。



編集後記

当社では、一昨年までは環境への取組みをまとめた「環境報告書」を発行してきましたが、昨年（2012年）から環境への取組みだけでなく、CSR（企業の社会的責任）への取組みを報告すべく「CSR報告書」を発行させていただいております。

本冊子「CSR報告書2013」では、「CSRマネジメント」「社会性報告」「環境報告」の各分野別に、主に2012年度の活動を中心に紹介させていただきました。

当社は今後も地域社会の一員として、環境・安全活動並びに社会貢献活動に積極的に取り組んでまいりますので、本報告書をご覧いただいた皆さまから忌憚のないご意見、ご指導を賜れば幸いに存じます。

また、当社はCSR活動についても(株)デンソーと連結経営を行なっております。(株)デンソーの「CSRレポート2013」(<http://www.denso.co.jp/ja/csr/report/2013/index.html>)も併せてご覧下さい。

2013年11月

デンソートリム株式会社

〒510-1222

三重県三重郡菟野町大強原赤坂2460

お問い合わせ先
経営企画部 総務室

TEL 059-391-0011

FAX 059-391-0050



<http://www.densotrim.co.jp/>